

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
中日本航空専門学校		昭和57年4月1日		中村 寿志		〒 501-3924 (住所) 岐阜県関市迫間字吉田洞1577-5 (電話) 0575-24-2521		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人神野学園		昭和40年2月18日		山田 弘幸		〒 460-0001 (住所) 名古屋市中区泉1丁目23番37号 (電話) 052-971-6161		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		エアポート・サービス科 キャビンアテンダント・ グランドスタッフコース		平成22(2010)年度	-	平成27(2015)年度	
学科の目的		航空機の着陸から次の離陸までの間に行う整備を除く地上支援業務、航空機地上支援業務(グランドハンドリング)、出発・到着顧客の カスタマーフロント業務(グランドスタッフ)、航空機内での接客・保安管理業務(キャビンアテンダント)のスペシャリストを養成						
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)		実用英語技能検定、TOEIC、中国語検定、サービス介助士						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,710 時間		1,050 時間	0 時間	820 時間	0 時間	0 時間
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率
100×2=200 人		49 人		21 人		43%		5 %
就職等の状況		■卒業者数(C)		20 人				
		■就職希望者数(D)		18 人				
		■就職者数(E)		18 人				
		■地元就職者数(F)		1 人				
		■就職率(E/D)		100 %				
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0 %				
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		90 %				
		■進学者数		0 人				
		■その他						
		(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等								
(令和5年度卒業生)								
グランドスタッフ、キャビンアテンダント								
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
		※有の場合、例えば以下について任意記載						
		評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL		
当該学科のホームページURL		https://www.cna.ac.jp/department/airport/						
企業等と連携した実習等の実施状況		(A:時間による算定)						
		総授業時数				1,830 時間		
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				780 時間		
		うち企業等と連携した演習の授業時数				0 時間		
		うち必修授業時数				180 時間		
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				180 時間		
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 時間		
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				780 時間		
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人		
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人		
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人		
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人		
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				4 人		
		計				5 人		
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。.)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																																																															
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。.)における企業等との連携に関する基本方針 実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)に活かす。																																																															
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 企業関係者などの外部委員と中日本航空専門学校で意見交換を行い、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。																																																															
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿																																																															
令和6年5月1日現在																																																															
<table><tr><th>名 前</th><th>所 属</th><th>任期</th><th>種別</th></tr><tr><td>吉田 保夫</td><td>公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>①</td></tr><tr><td>小嶺 茂也</td><td>朝日航洋株式会社 西日本航空支社 整備部 部長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>③</td></tr><tr><td>加古 太一</td><td>三菱重工業株式会社 HRマネジメント部 名古屋HRビジネスパートナーグループ 主任</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>③</td></tr><tr><td>直川 秀雄</td><td>三菱電機システムサービス株式会社 産業システムセンター長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>③</td></tr><tr><td>岡本 真治</td><td>ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>③</td></tr><tr><td>中村 寿志</td><td>中日本航空専門学校 校長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>花田 正樹</td><td>中日本航空専門学校 副校長、就職キャリア支援センター長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>浅井 隆司</td><td>中日本航空専門学校 副校長、エアロスペース科・航空生産科学科長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>加藤 伸幸</td><td>中日本航空専門学校 事務局長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>大村 聖彦</td><td>中日本航空専門学校 学生部 部長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>杉原 秀則</td><td>中日本航空専門学校 航空整備科 学科長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>田中 希代子</td><td>中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>梶田 和彦</td><td>中日本航空専門学校 航空ロボティクス科 学科長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr><tr><td>中島 圭一</td><td>中日本航空専門学校 国際交流センター長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>—</td></tr></table>				名 前	所 属	任期	種別	吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	①	小嶺 茂也	朝日航洋株式会社 西日本航空支社 整備部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③	加古 太一	三菱重工業株式会社 HRマネジメント部 名古屋HRビジネスパートナーグループ 主任	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③	直川 秀雄	三菱電機システムサービス株式会社 産業システムセンター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③	岡本 真治	ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③	中村 寿志	中日本航空専門学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	花田 正樹	中日本航空専門学校 副校長、就職キャリア支援センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	浅井 隆司	中日本航空専門学校 副校長、エアロスペース科・航空生産科学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	加藤 伸幸	中日本航空専門学校 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	大村 聖彦	中日本航空専門学校 学生部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	杉原 秀則	中日本航空専門学校 航空整備科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	田中 希代子	中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	梶田 和彦	中日本航空専門学校 航空ロボティクス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—	中島 圭一	中日本航空専門学校 国際交流センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
名 前	所 属	任期	種別																																																												
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	①																																																												
小嶺 茂也	朝日航洋株式会社 西日本航空支社 整備部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③																																																												
加古 太一	三菱重工業株式会社 HRマネジメント部 名古屋HRビジネスパートナーグループ 主任	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③																																																												
直川 秀雄	三菱電機システムサービス株式会社 産業システムセンター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③																																																												
岡本 真治	ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③																																																												
中村 寿志	中日本航空専門学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
花田 正樹	中日本航空専門学校 副校長、就職キャリア支援センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
浅井 隆司	中日本航空専門学校 副校長、エアロスペース科・航空生産科学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
加藤 伸幸	中日本航空専門学校 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
大村 聖彦	中日本航空専門学校 学生部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
杉原 秀則	中日本航空専門学校 航空整備科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
田中 希代子	中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
梶田 和彦	中日本航空専門学校 航空ロボティクス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
中島 圭一	中日本航空専門学校 国際交流センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—																																																												
※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員																																																															
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (開催日時) ※年2回開催 令和5年度 第1回令和5年7月19日、第2回令和5年12月5日 令和6年度 第1回令和6年7月17日、第2回令和6年12月3日																																																															
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 本校で策定した教育課程について各委員の意見、見識を伺い、授業や今後の教育課程の編成に反映させている。																																																															
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。.)の授業を行っていること。」関係																																																															
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 教育内容に関するノウハウや最新技術の情報、技術指導などを受けられる企業と連携して実践的な実習・演習等の授業を行う。																																																															
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 1年次 空港でインターンシップ生として約1か月から約4か月間の実技研修等を実施。 2年次 内定企業でインターンシップ生として約4か月間の実技研修等を実施。																																																															
(3)具体的な連携の例																																																															
<table><tr><th>科 目 名</th><th>企業連携の方法</th><th>科目概要</th><th>連 携 企 業 等</th></tr><tr><td>インターンシップ教育 (基礎) (応用)</td><td>3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)</td><td>1.委託先企業の訓練カリキュラムに沿い、空港におけるグランドスタッフ(旅客)関連の業務知識を取得する。2.空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と関連するランプ・カーゴ・オペレーション業務との関わりと業務連携の重要性を理解する。</td><td>ANA中部空港株式会社</td></tr><tr><td>企業研修教育 (基礎) (応用)</td><td>3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)</td><td>1.就職先企業の早期研修として、空港における実務業務を担当する。2.空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と社員としての実務経験を積む。</td><td>ANA中部空港株式会社、ANA福岡空港株式会社、ANA沖縄空港株式会社、株式会社JALグランドサービス、株式会社JALスカイ、株式会社Kスカイ、西鉄エアサービス株式会社、株式会社エスエーエス、スカイマーク株式会社 計9社</td></tr></table>				科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等	インターンシップ教育 (基礎) (応用)	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	1.委託先企業の訓練カリキュラムに沿い、空港におけるグランドスタッフ(旅客)関連の業務知識を取得する。2.空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と関連するランプ・カーゴ・オペレーション業務との関わりと業務連携の重要性を理解する。	ANA中部空港株式会社	企業研修教育 (基礎) (応用)	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	1.就職先企業の早期研修として、空港における実務業務を担当する。2.空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と社員としての実務経験を積む。	ANA中部空港株式会社、ANA福岡空港株式会社、ANA沖縄空港株式会社、株式会社JALグランドサービス、株式会社JALスカイ、株式会社Kスカイ、西鉄エアサービス株式会社、株式会社エスエーエス、スカイマーク株式会社 計9社																																																
科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等																																																												
インターンシップ教育 (基礎) (応用)	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	1.委託先企業の訓練カリキュラムに沿い、空港におけるグランドスタッフ(旅客)関連の業務知識を取得する。2.空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と関連するランプ・カーゴ・オペレーション業務との関わりと業務連携の重要性を理解する。	ANA中部空港株式会社																																																												
企業研修教育 (基礎) (応用)	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	1.就職先企業の早期研修として、空港における実務業務を担当する。2.空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と社員としての実務経験を積む。	ANA中部空港株式会社、ANA福岡空港株式会社、ANA沖縄空港株式会社、株式会社JALグランドサービス、株式会社JALスカイ、株式会社Kスカイ、西鉄エアサービス株式会社、株式会社エスエーエス、スカイマーク株式会社 計9社																																																												
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係																																																															
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。.)の基本方針 現在担当している教育又は将来担当する教育に関する知識、技術、技能の習得・向上や授業改善、学生指導などに関する研修を組織的に行い教員の資質の向上を図る。																																																															
(2)研修等の実績																																																															
①専攻分野における実務に関する研修等																																																															
<table><tr><td>研修名:</td><td>航空関係企業の人事及び訓練担当者との意見交換</td><td>連携企業等:</td><td>株式会社フジドリームエアラインズ及び株式会社エスエーエス</td></tr><tr><td>期間:</td><td>令和5年10月25日</td><td>対象:</td><td>教員</td></tr><tr><td>内容:</td><td>名古屋空港で航空関係企業の人事及び訓練担当者との意見交換、職場見学を通して、現場で求められる実践的なスキルについてヒアリングを行い教育内容の改善をおこなった。</td><td></td><td></td></tr></table>				研修名:	航空関係企業の人事及び訓練担当者との意見交換	連携企業等:	株式会社フジドリームエアラインズ及び株式会社エスエーエス	期間:	令和5年10月25日	対象:	教員	内容:	名古屋空港で航空関係企業の人事及び訓練担当者との意見交換、職場見学を通して、現場で求められる実践的なスキルについてヒアリングを行い教育内容の改善をおこなった。																																																		
研修名:	航空関係企業の人事及び訓練担当者との意見交換	連携企業等:	株式会社フジドリームエアラインズ及び株式会社エスエーエス																																																												
期間:	令和5年10月25日	対象:	教員																																																												
内容:	名古屋空港で航空関係企業の人事及び訓練担当者との意見交換、職場見学を通して、現場で求められる実践的なスキルについてヒアリングを行い教育内容の改善をおこなった。																																																														
②指導力の修得・向上のための研修等																																																															
<table><tr><td>研修名:</td><td>困った学生事情と対応の共有</td><td>連携企業等:</td><td>学生支援課</td></tr><tr><td>期間:</td><td>令和5年9月16日</td><td>対象:</td><td>全教職員</td></tr><tr><td>内容:</td><td>全員が現在・過去を含め困った学生のことについて共有し、今後の学生対応に役立てる。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>研修名:</td><td>教育のICT化</td><td>連携企業等:</td><td>航空整備科教員</td></tr><tr><td>期間:</td><td>令和5年9月16日</td><td>対象:</td><td>全教員</td></tr><tr><td>内容:</td><td>Teamsワークショップ</td><td></td><td></td></tr></table>				研修名:	困った学生事情と対応の共有	連携企業等:	学生支援課	期間:	令和5年9月16日	対象:	全教職員	内容:	全員が現在・過去を含め困った学生のことについて共有し、今後の学生対応に役立てる。			研修名:	教育のICT化	連携企業等:	航空整備科教員	期間:	令和5年9月16日	対象:	全教員	内容:	Teamsワークショップ																																						
研修名:	困った学生事情と対応の共有	連携企業等:	学生支援課																																																												
期間:	令和5年9月16日	対象:	全教職員																																																												
内容:	全員が現在・過去を含め困った学生のことについて共有し、今後の学生対応に役立てる。																																																														
研修名:	教育のICT化	連携企業等:	航空整備科教員																																																												
期間:	令和5年9月16日	対象:	全教員																																																												
内容:	Teamsワークショップ																																																														
(3)研修等の計画																																																															
①専攻分野における実務に関する研修等																																																															
<table><tr><td>研修名:</td><td>イノベーション推進活動</td><td>連携企業等:</td><td>ANA中部空港株式会社</td></tr><tr><td>期間:</td><td>令和6年7月3日</td><td>対象:</td><td>教員</td></tr><tr><td>内容:</td><td>デジタル技術の利用、活用について</td><td></td><td></td></tr></table>				研修名:	イノベーション推進活動	連携企業等:	ANA中部空港株式会社	期間:	令和6年7月3日	対象:	教員	内容:	デジタル技術の利用、活用について																																																		
研修名:	イノベーション推進活動	連携企業等:	ANA中部空港株式会社																																																												
期間:	令和6年7月3日	対象:	教員																																																												
内容:	デジタル技術の利用、活用について																																																														
②指導力の修得・向上のための研修等																																																															
<table><tr><td>研修名:</td><td>SD研修</td><td>連携企業等:</td><td>岐阜医科大学 教員</td></tr><tr><td>期間:</td><td>令和6年12月21日</td><td>対象:</td><td>全教職員</td></tr><tr><td>内容:</td><td>学生のメンタルヘルス対策</td><td></td><td></td></tr></table>				研修名:	SD研修	連携企業等:	岐阜医科大学 教員	期間:	令和6年12月21日	対象:	全教職員	内容:	学生のメンタルヘルス対策																																																		
研修名:	SD研修	連携企業等:	岐阜医科大学 教員																																																												
期間:	令和6年12月21日	対象:	全教職員																																																												
内容:	学生のメンタルヘルス対策																																																														

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、個別に取り組み状況を説明し、聞き取り調査を行い活かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、学校運営が適正に行われているかを評価いただき、各委員の意見、見識を伺い、今後の学校運営に反映させている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	企業等委員
河野 邦宏	中日本航空専門学校 教育後援会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	保護者
久保 祐一	田原みらいづくり協議会 代表	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	地域住民
横山 実	中日本航空専門学校 航友会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	卒業生
堀 秀樹	岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	高等学校校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

URL: <https://www.cna.ac.jp/information/>
公表時期: ホームページにて毎年10月ごろ公表

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育及び学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について自己評価を行うとともに、保護者、地域住民、関連団体等により構成された委員による学校関係者評価委員会において公表し、自己評価について客観性・納得性を高める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・人材育成
(2)各学科等の教育	教育活動・教育環境
(3)教職員	学校運営・教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生支援・学生の受入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	法令等の遵守・学校関係者評価報告
(10)国際連携の状況	国際交流
(11)その他	法令等の遵守・社会貢献・地域貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <https://www.cna.ac.jp/information/>
公表時期: ホームページにて毎年10月ごろ公表

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアポート・サービス科キャビンアテンダント・ グランドスタッフコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間学Ⅰ	学生一人一人が教育理念を理解し、目標に向かって大切な時間を過ごしていくために心掛けて欲しい事項、および自分のキャリアデザインを実現するために必要な自己分析や企業研究等の方法、考え方を講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。	1通	30	2	○			○		○		
○			接遇・ホスピタリティ概論Ⅰ	ホスピタリティ業におけるプロフェッショナルを育成するため、ホスピタリティの概念及びサービス業に携わる人材に求められる接客・接遇の基礎を学び、演習を通して実践的な接客・接遇の基礎的技能を定着させる。	1通	60	4	○			○		○		
○			SPI対策－1	1. 就職試験において広く実施されている能力・適性検査対策として、非言語分野を中心にSPI3演習を実施する。 2. SPI演習を通じて、数的能力を中心に、基礎的能力の向上を図り、各種問題に対処する際の考え方を理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			SPI対策－2	1. 就職試験において広く実施されている能力・適性検査対策として、言語分野を中心にSPI3演習を実施する。 2. SPI3内容に加え、一般教養・時事問題・国内海外地理の知識を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
○			キャリアプランニング	就職活動の前提となる全国の航空系企業の研究と志望企業選定に関わる指導、ならびに就職選考試験に求められるエントリーシート・履歴書の作成要領、及び面接対策等に関わる包括的な就職指導を行う。	1後	30	2	○			○		○		
○			TOEIC-Ⅰ	航空業界に就職する際、及び就職後も高得点を求められるTOEICのリスニング・リーディング能力向上を目指す。	1通	60	4	○			○			○	
○			英会話Ⅰ	A variety of reading exercises, consisting of differing topics and situations, to strengthen and inspire student confidence. A variety of written exercises and lecture topics, beginning with elementary grammar, advancing as students progress. Building vocabulary sets, beginning with nouns, verbs and adjectives. Thereafter, moving to set phrases.	1通	180	12	○			○			○	
○			中国語Ⅰ	基礎的な文法点や簡単な日常会話能力を身につけ、将来職場で活用できることを目的とする。	1前	30	2	○			○			○	
	○		日本語(選択)	様々なビジネスシーンで実際に話される口語を取り上げビジネスに必要なコミュニケーション能力を最大限に伸ばすこと、その際に必要とされる基本的な敬語を理解し、上手に使いこなすことを目的とする。また、ビジネスの上でメールを効果的に利用するために、それぞれのメールの特徴を理解し、その特徴に合った使い方とマナーを守ってビジネスメールを書くことを目指す。	1後	180	12	○			○			○	
○			空港サービス入門	1. エアポートサービス科で受講する講義概要(スケジュール・内容)について、各担当教官別に入門編として説明を行う。2. エアポートサービス科で取得を目指す各資格の概要と必要となる知識等について、説明を行う。3. 航空会社の実務業務並びに今後の講義の基礎となる航空業務の基礎知識(空港3レーター・航空会社2レーター・航空基礎用語等)を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			インターンシップ教育(基礎)	1. 委託先企業の訓練カリキュラムに沿い、空港におけるグランドスタッフ(旅客)関連の業務知識を取得する。2. 空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と関連するランプ・カーゴ・オペレーション業務との関わりと業務連携の重要性を理解する。	1後	180	4			○		○		○	○
○			空港業務知識Ⅰ	1. 航空会社の業務の全体像を理解し、航空会社の各職種(主にキャビンアテンダント・グランドスタッフ・グランドハンドリング・エアカーゴ)に関する基礎的な業務知識を学ぶ。2. 航空業界で働くスタッフとして、航空関連用語や保安に関する基礎知識、航空機利用の流れ、国内各空港の特色や地域特性を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			エアポートサービスⅠ	空港サービスにおける基本スキーム(空港の基本構造・グランドスタッフの具体的業務内容)を理解する。基本用語・略号は繰り返し確認テストを行うことで身に付ける。	1通	60	4	○			○		○		
○			接遇・ホスピタリティⅠ－CA	客室乗務員の業務理解を深め、①保安要員②接遇要員③マーケティング要員としての基礎力を身につける。	1後	30	2	○			○		○		
○			接遇・ホスピタリティⅠ－GS	高品質な接客・接遇を体現するにあたり、身だしなみやコミュニケーション能力などエアラインの業務全般に求められる接客・接遇の基礎を学び、空港の様々なシーン(カウンター・ゲート・ロビー・機内)を想定し、学内モックアップで実践的な接客・接遇の基礎的技能を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			サービス介助	サービス介助士資格取得講座での資格取得に向けて、事前学習と「おもてなしの心」と「安全な介助技術」基礎を学ぶ。空港や機内といった特殊な空間におけるおもてなしの心と介助技術を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアポート・サービス科キャビンアテンダント・ グランドスタッフコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		インターンシップ教育(応用)(選択)	1. 委託先企業の訓練カリキュラムに沿い、空港におけるグランドスタッフ(旅客)関連の業務知識を取得する。2. 空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と関連するランプ・カーゴ・オペレーション業務との関わりと業務連携の重要性を理解する。	1後	180	4			○		○		○	
	○		キャビンアテンダント・グランドスタッフ接遇力(応用)(選択)	就職活動を進めるにあたり、幅広い業界と職種において活躍できる人材育成を目指すプログラムです。就職に優位な各種資格の取得対策およびより深い表現力・接遇力・専門知識を習得します。	1後	180	12	○			○		○	○	
○			人間学Ⅱ	社会人として必要な基礎知識、ルール、マナーおよび求められる基礎力について、講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			接遇ホスピタリティ概論Ⅱ	内定前・内定後にも有効活用できるヒューマンスキルを磨いていきます。社会人としてのスタートに向けた行動変革と実行力を知識および行動の側面から学習します。	2前	30	2	○			○		○		
○			TOEICⅡ-1	航空業界に就職する際、及び就職後も高得点を求められるTOEICのリーディング能力向上を目指す。英文法を理解し、長文読解力をつける。	2前	90	6	○			○			○	
	○		TOEICⅡ-2	航空業界に就職する際、及び就職後も高得点を求められるTOEICのリーディング能力向上を目指す。英文法を理解し、長文読解力をつける。	2後	90	6	○			○			○	
○			英会話Ⅱ-1	空港における安全な環境を理解し、キャビンアテンダント、グランドスタッフとして国際空港で使用できる英語を学ぶ。様々なシチュエーションにおいて旅行者に対応できる英語能力を培う。	2前	60	4	○			○			○	
	○		英会話Ⅱ-2	空港における安全な環境を理解し、キャビンアテンダント、グランドスタッフとして国際空港で使用できる英語を学ぶ。様々なシチュエーションにおいて旅行者に対応できる英語能力を培う。	2後	60	4	○			○			○	
○			ホスピタリティENGLISH 1	空港での搭乗手続き、手荷物の受託、乗り継ぎのご案内と機内での接客英語を航空業界に特化したテキスト使用しシーン毎に学んでいきます。日常会話とは異なる丁寧な接遇英語をリスニング、カンパセーションを通じてマスターします。	2前	30	2	○			○			○	
	○		ホスピタリティENGLISH 2	訪日外国人対応力向上を目指し、接客英会話の基本を各シーン毎に学習します。	2後	30	2	○			○			○	
	○		中国語Ⅱ	航空業界を目指す学生に対し、初歩的な中国語に興味を持たせ、簡単な日常的会話及び空港でよく使われる簡単な中国語を理解させ、将来航空業界で簡単な中国語が活用できることを目指す。	2後	60	4	○			○			○	
○			エアラインビジネス-1	1. エアラインの関連事業を知り、様々な企業の概要、業務を学ぶ。2. 激動する航空業界において、航空業界の最新動向やトレンドを学び、航空業界を取り巻く環境について理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
	○		エアラインビジネス-2	1. 航空関連知識の発展として、航空ネットワークや海外貿易、航空会社の従業員満足、顧客満足への取り組みを学ぶ。2. 航空業界で働くスタッフとして、海外空港の特色や地域特性を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			空港業務知識Ⅱ-1	① 人間の行動特性から起こりうるヒューマンエラーの仕組みを理解し、そのエラーコントロール手法を習得する。② エラー防止の実践と定着をめざす。③ 企業における安全風土の意識づくりの重要性を理解する。	2前	30	2	○			○			○	
	○		空港業務知識Ⅱ-2	各担当の業務上の知識だけに留まらず、空港施設や空港内における様々な規則、ルールについての理解を深める。	2後	30	2	○			○			○	
○			エアポートサービスⅡ	エアポートサービスⅠで理解した空港サービスにおける基本スキーム(空港の基本構造・グランドスタッフの具体的業務内容)に加え、グループワークやディスカッションを通し、主体性を持って航空業界の知識の定着を図る。	2前	30	2	○			○			○	
○			接遇・ホスピタリティⅡ-CA	客室乗務員の業務理解を深め、①保安要員②接遇要員③マーケティング要員としての基礎力を身につける。	2前	30	2	○			○			○	
○			接遇・ホスピタリティⅡ-GS	・エアラインの業務全般に求められる接客・接遇の定着を図る。(高品質な接客・接遇を体現する)・空港で想定されるレギュラー時やクレームに対するの対応基礎を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
	○		コンピュータ実践	・ワープロソフト(Microsoft Word)、表計算ソフト(Microsoft Excel)の基礎的な使用方法を習得する。・プレゼンテーションソフト(Microsoft Power Point)で資料の作り方を習得する。・コンピュータネットワークの基礎知識とウィルス対策を学習する。	2後	30	2	○			○			○	
	○		コミュニケーション実践	伝える力としての非言語・言語表現力を、【文章作成】【シーン別会話】【プレゼンテーション】を中心に、テーマ別に学び、社会人基礎力の基本を体得する。	2後	30	2	○			○			○	
	○		空港サービス基礎	旅客サービスの基礎として航空旅客輸送における危険物の重要性および航空機の重量、重心位置管理、就航便の工程管理業務について学び、航空安全に対する知識を高め 定時運航に貢献する。	2後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアポート・サービス科キャビンアテンダント・ グランドスタッフコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		品質管理	航空業界および企業・自身にとっての品質は何かを考える。品質を維持向上させていく上で、基本となる用語や問題解決に役立つ具体的手法について学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○	
	○		企業研修教育(基礎)	1. 就職先企業の早期研修として、空港における実務業務を担当する。 2. 空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と社員としての実務経験を積む。	2 後	120	3			○		○		○	○
	○		企業研修教育(応用)	1. 就職先企業の早期研修として、空港における実務業務を担当する。 2. 空港スタッフとして求められる航空専門知識の取得と社員としての実務経験を積む。	2 後	300	7			○		○		○	○
					40	科目	1830								時数

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 全課程の修了に必要な総授業時数1,710時間		1学年の学期区分	2 期
履修方法: 評価基準は、100～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、60点未満を不可とし、優良可を合格とし、不可を不合格とする。評価方法は、筆記試験または、レポート、実技試験、成果物等により行う		1学期の授業期間	15 週